

## 平成 27 年度 第 2 回 磐田市歴史文書館運営審議会

日時 平成 28 年 1 月 29 日 (水) 13:30~15:26  
場所 磐田市竜洋支所 2 階 会議室  
出席者 市歴史文書館運営審議会委員 7 名  
小杉委員 鈴木潔委員 高橋委員 市川委員 杉浦委員 玉田委員 石川委員  
出席職員 教育委員会事務局職員 8 名  
村松教育長・秋野教育部長  
大箸課長・飯田館長・山室副主任・五島囑託・名倉囑託・鮫嶋囑託  
傍聴人 なし

### 議事

#### 1. 報告事項

##### (1)非現用公文書等の移管選別状況について

〔事務局説明〕

〔委員〕 なし

##### (2)企画展等について

〔事務局説明〕

〔委員〕 歴史学習会の時、マイクについての苦情があったようだが、検討していただきたい。

〔事務局〕 支所の設備担当者に確認し、次回からこのようなことがないようにします。

〔委員〕 歴史学習会を開催し、多くのアンケート意見が寄せられているが、充実感など職員の内側の声を聞かせてほしい。

〔事務局〕 今まで知らなかった歴史を知ることができたなどの声を多数いただき、喜んでいただいているのかなということで、やってよかったなという充実感を感じている。

##### (3)レファレンス利用状況について

〔事務局説明〕

〔委員〕 旧家で今無住の個人宅について、情報の線引きはどうしているのか

〔事務局〕 住所を教えてほしいという依頼だったが、当主が現地に住んでおらず、旧家の了解を得ていないことと、依頼者が旧家の電話番号を知っていて、直接聞くこともできるため、お断りした。

〔委員〕 レファレンス件数は多く、歴史文書館が多くの人たちに理解され、活用されていると感じる。比較のため、わかれば、2、3年前のレファレンス数を教えてほしい。

〔事務局〕 26年度は155件、25年度は169件であった。少し減っているが、数より質問にどう答えるかが問題だと思っている。

〔委員〕 一度お答えした方が、もっと詳しく調べたいということがあるのか。

何回も来庁される方は、たくさんいる。

レファレンスは、市民とのつながりの場であると思う。これが増えるというこ

とは、市民に親しまれているということである。数ばかりではなく、答え方も考えているのは、頼もしい。

〔委員〕 レファレンス依頼者が、レファレンス回答内容について満足したかは、推定であるので、非常に難しい。運営審議会委員が判断できるのは、件数のみである。

〔事務局〕 回答は、相手の話をよく聞いてから行うようにしている。

〔委員〕 福田町史を参考にして、他へ投稿する場合、引用元をただ記載すればいいのか、現在の所有者から許可をとるのか。

〔事務局〕 出典を記載すれば問題はない。

#### (4)地域資料の受入れ整理状況について

〔事務局説明〕

〔委員〕 表に私が豊浜小学校に寄贈したものが載っていない。

〔事務局〕 ここに載せているのは、歴史文書館に寄贈されたものだけである。

〔委員〕 ご自宅にある古文書等を、「歴史文書館へ寄贈してください」という運動をしたらどうか。

〔事務局〕 2、3年前に、広報に掲載したが、反応は1件であった。また、資料調査の時、相手先の状況によるが、寄贈依頼をしてくることもある。

〔委員〕 できるだけ、何らかの方法で収集してほしい。

〔事務局〕 3月1日発行の「文書館だより」で呼びかけていく。また、常にアンテナを高くし、資料に散逸・消失がないように努めていく。

〔委員〕 寄託は、どうなっているのか。

〔事務局〕 現在は、受け入れていない。

〔委員〕 寄贈では、我が家の名前が残らない。先祖から預かってきたので我が家の名前を残したい。何に使ってもいいので公的機関で保存し、何々家文書、何々家寄託という名前で残してほしいと考える方もいる。

〔事務局〕 寄贈の場合は、目録名を「何々家文書」とし、寄贈者の名前を残すようにしている。公開する時も、「何々家文書」としている。

〔委員〕 寄託なら預けやすい。受け入れる包容力を広げておけばもっと残るのではないか。寄託が受け入れできない理由を教えてください。

〔事務局〕 受入れのスペースの問題と、整理が追いついていない現状があるので、今は受入れができないということで、今日まで来ていると理解している。今後については、改めてもう一度検討を進めていく。

〔委員〕 お役所的な答弁で、これはいけないと思う。忙しく整理が難しいことも分かるが、とにかく受け付ける努力をしていただきたい。一度断ったら、二度と集まらない。

#### (5)福田町史編さん事業について

〔事務局説明〕

〔委員〕 旧家の古文書の大量に出てきてその扱いについて困っているという話が以前出たが、何か目安はついたか。

〔事務局〕 近世、近現代で沢山あり、所有者が保存している。原則的に写真を撮って、パソコン上でデータが見えるようになっており、目録も全部できている。公開許可も取ってあるので、必要に応じて公開もできる。また、筆耕についても、町

史に関する部分はほぼ終了している。

## 2. 協議事項

### (1)平成 28 年度事業計画について

〔事務局説明〕

〔委員〕 次回、第 17 回の企画展は光明電鉄のみの展示か、または磐田から中泉、池田へ抜けた人者鉄道を含めて行うのか。

〔事務局〕 光明電鉄だけではなく、地域開発の構想ということを含め、考えていきたい。

〔委員〕 福田町史に関する企画展を、第 18 回ではなく、次回、第 17 回に開催してもらえないか。

〔事務局〕 福田町史が今年度末に事業が終了するが、資料整理などにある程度の時間がかかることが見込まれる。また、通史編を 3 月に発行すると、直後は注目されるが、次第に忘れ去られる傾向になるので、半年くらい経ってから行うのが効果的と思うので、秋を考えている。

〔会長〕 それでは、28 年度の企画展のテーマをここで決めたい。福田の歴史については、準備の都合もあるとのことなので、第 17 回企画展は「光明電鉄（仮題）」、第 18 回企画展は「福田地域の歴史（仮題）」ということによろしいでしょうか。

〔委員〕 異議なし

〔会長〕 それでは、そのようにお願いします。

### その他

〔委員〕 歴史文書館管理運営要領の中に、「不服の申し出」とあるが、公開ができず、利用者から「なぜできないのか」ということになった場合、不服の申し出について説明するのがよいと思う。

〔事務局〕 判断が難しい場合、非公開、一部非公開については、一担当職員ではなく、館長判断となる。もし、非公開になった場合は、理解いただけるように、丁寧に、誠意を尽くして理由を説明し、不服の申し出に至らないよう努力する。それでも納得していただけない場合は、制度の説明をしていく。

〔委員〕 職員個人ではなく、館長から説明があれば了解すると思う。

〔委員〕 重要資料の整理点検は、どのようにしているか。

〔事務局〕 目録と現状との整理点検、並べ替えをもう一回やり直している。目録と現状との照合チェックは、常に行っている。樟脳を入れ替えるなどの作業も行っている。

〔委員〕 主な現物と目録との対照は、行っていないのか。

〔事務局〕 行っている。

〔委員〕 松岡霊社は行っているか。

〔事務局〕 行っている。

〔委員〕 27 年度には 20 万件近い収蔵資料を保存し、年々増えていくと思うが、収納スペースは、どの程度あるのか。

〔事務局〕 具体的なスペースの広さは答えられないが、職員の選別眼の向上や前年度まで

に搬入された文書の選別などにより、搬入される文書数より廃棄する文書数が多くなっていること、今年度から電子決裁システムが導入され、今後紙文書量が減ることなどを考えると、すぐに満杯になる状態ではないと考えている。

〔委員〕 **公文書の選別は難しいと考えるが、考えはあるのか。**

〔事務局〕 今後、文書管理担当の総務課との協議を進めていきたいと考えているが、現段階では具体的な検討は進んでいない。

当市の文書管理システムは発展途上である。他の自治体は県レベルである。昨年、視察した市は政令指定都市のため、その方法が当市に移行できるかは研究の余地があると思う。確認を紙文書で行うことも必要であり、電子公文書とうまく共存しながら管理していくべきだと考える。また、現用の電子公文書は、数年後に歴史文書館へ搬入された時に、電子技術の向上などの情報を集めながら、業務を推進していかざるを得ないと思う。

〔委員〕 **電子公文書は、操作を間違えると、データが消える。どうやって保存していくのがいいのか。**

〔事務局〕 病院のカルテは医療法で5年保存となっているが、基本的に永年保存にしようとの流れになっている。電子カルテは、特定のソフトウェアでしか見られない。今のデータが、10年先に見えるかが大きな課題になっている。今のシステムが動いている間に、できるだけ汎用的なシステム、例えば PDF ファイルに変換するなどの取り組みが始まっている。

バックアップをとっていく方法も重要。ソフトの関係など、今後の情報システム課や総務課と相談をしながら、行っていく。